

## 資料 8 目標のデータの蓄積と評価

資料 7 で示した方法で目標を設定した後行われた除染の結果を追加し、その精度を高める。

しかし、新たなデータの追加により傾向が異なる場合は、評価方法を見直す。

大きな違いを生じたかを判断する具体的な方法として、例えば下記に示す【2 つのグループの有意性を判断する方法】がある。

### 【2 つのグループの有意性を判断する方法】

目標を設定したときのデータのグループと、新たなデータのグループの間に、有意な差があるかどうかの判定方法として、統計的処理の手法を用いるのも一つの方法である。正規性<sup>19</sup>、等分散性<sup>20</sup>により、その方法を使いわけると。

資表 8-1 に 2 つのグループの検定方法の分類を示す。

資表 8-1 2 つのグループの検定方法の分類

正規性	等分散性	検定方法
有	有	2 つの母平均の差の検定 ( t 検定 )
	無	ウェルチの検定
無		ウィルコクソンの順位和検定

<sup>19</sup> 正規性：母集団が正規分布に従っていることを意味する。

<sup>20</sup> 等分散性：それぞれのグループの母分散がすべて等しいことを意味する。等分散性の判断は、F 検定を実施する。